

令和6年度 神崎総合病院 活動報告

令和6年7月1日

○ 医療圏について

公立神崎総合病院は、兵庫県の公立病院の中で姫路から但馬間の医療を担う唯一の病院です。播但連絡自動車道路と中国縦貫道路が交差する福崎インターチェンジに近く、兵庫県のほぼ中央部（姫路市の北 25 km）に位置し、中播磨北部・但馬南部の地域医療を担う公的病院として役割を果たしています。

○ 街の特徴について

公立神崎総合病院は、神崎郡の神河町にあります。神河町は兵庫県のほぼ中央に位置するハート型のまちで、平成17年に神崎町と大河内町が合併して誕生しました。

2023年4月現在の人口は約10500人であり、兵庫県一小さな町となっています。

面積は202.23平方キロメートル、面積の8割を山林が占めており千町ヶ峰を筆頭に千ヶ峰・暁晴山など1000m級の山々に囲まれています。峰山・砥峰高原は関西地方でも有数の高原地帯です。

アクセスとしては、町の南北方向にJR播但線と国道312号線、播但連絡自動車道が走り、姫路市まで約40分、京阪神まで約1時間30分以内となっています。

○ 公立神崎総合病院について

- ・病床数:140床(3病棟)
- ・院内常勤医師数:20名
- ・養成医派遣数:前期派遣1名
- ・養成医派遣診療科:総合診療部・内科



○ 養成医派遣各科診療の特徴

<総合診療部・内科>

本年度は前期派遣3年目1名のみの派遣です。総合診療部に属し、内科の先生方と病棟業務・外来診療・救急対応を担っております。今年は大阪医科薬科大学病院の総合診療科から2名の専攻医が派遣されており、内科の常勤医師は県養成医師を含めて7名です。

内科の症例は、感染症、生活習慣病、消化器疾患、血液疾患、膠原病、透析など多岐にわたるため、幅広く学ぶことができます。日常業務としては病棟、外来、透析、救急対応などを行っています。

私自身は日々勉強しながらの診療ではありますが、ベテランの先生が多くカンファレンス以外の時間であっても不安なことはすぐに上級医に相談して、治療方針等を決定しています。また手技に関しては、PICC挿入や挿管などは麻酔科、エコーなどの検査に関しては検査部などからより専門的に教えていただいております。

若手の医師は多くないですが、各診療科の垣根が低く、相談や質問がしやすい環境です。

○ 地域医療活動・病院外活動等の特徴・実績

神河町の高齢化率は約 40%と高く、急性期から慢性期・維持期の入院機能に加えて、在宅医療の充実も求められています。

当院は近隣の診療所・施設と連携を図りながら、地域の方々が住み慣れた土地で安心して過ごせるような環境づくりを目指しており、今年の7月からは訪問診療も始まりました。

また、人間ドックや予防接種など予防医療も力を入れており、患者さんの誕生月の外来受診時にはスクリーニング問診を行い、必要に応じて検査を施行することもあります。

神崎郡在宅医療・介護連携支援センターでは多職種連携も図っており、多職種研修会やナイトカフェ開催などの取り組みもされています。昨年度は同センターが主催される「地域で考える医療と介護の講演会」の寸劇に演者として参加させていただきました。地域のイベントに参加させていただくことで、お世話になっていても普段の業務ではなかなかお会いする機会が得られなかったケアマネージャーさんや保健師さん達と直接交流することができました。そのおかげで普段の診療において、患者さんの家での生活や退院後の様子についてイメージしやすくなりました。

今年度は、当院の地域連携室が中心となってオープンカンファレンスを開催し、地域の多職種との交流の機会を設ける予定となっています。

○ 病院の推しをひとつ

繰り返しにはなりますが、当院は各診療科の垣根が低く、普段からとても相談しやすい環境です。診療科だけでなく、看護師さんをはじめとしたコメディカルの方々も親切で、患者さんの状況を気軽に直接話し合えるため、チームで方向性を決めている実感が得られやすいです。

神崎は地域としても病院としても素敵なところですので、初期研修期間を終えてからの勤務先として選択肢に考えていただけたら、嬉しい限りです。